

전성태 「소풍」

2015.11.21

柳本圭子

◆作家について

전성태 (全成太)

1969年 全羅南道高興生まれ 中央大学文芸創作学科卒業

1994年 「답몰이」で実践文学新人賞を受賞して文壇にデビュー

2003年には民族文学作家会議の事務局長を務めた

小説集… 「매향」 (1999) 「국경을 넘는 일」 (2005) 「늑대」 (2009)

「두 번의 자화상」 (2015)

長編小説… 「여자 이발사」 (2005)

他に ルポ短編集 「길에서 만난 세상」 (2006)

散文集 「망태 성태 부리봉태」 (2010) など

<主な受賞歴>

2000年 第18回신동엽文学賞 「매향」

2009年 第6回채만식文学賞 「늑대」

2010年 第11回무영文学賞 「늑대」

2012年 第57回現代文学賞 「낙시하는 소녀」

2015年 第16회이효석文学賞 「두 번의 자화상」

(参考: 教保文庫HP、창비出版HP、매일경제デジタル版など)

◆作品について

◇ 「두 번의 자화상」の12編中最初の作品で、親世代の認知症を扱った自伝的な要素を含んでいる。

◇主な登場人物

キム・セホ …… 40過ぎの酒類販売会社の社員で、最近部署が変わり海外出張が増えた。4か月ほど前に認知症の父を亡くしている。

ジヒョン …… セホの妻で少しきつい性格。

ジヒョンの母 …… 80歳で、昨年輕い脳梗塞を患い歩行が多少困難。

セホとジヒョンの息子 …… 生意気盛りの11歳。

セホとジヒョンの娘 …… まだあどけない幼稚園児で四つ葉のクローバーに執着。

◇あらすじ

①142 ページ 1 行目～

5月の週末、セホ一家と義母を乗せ公園に向かう車の中はにぎやかだが、セホは二日酔いとたまった疲労で元気がない。娘は四つ葉のクローバーに興味津々。駐車場が混んでいたため行く先を変える。

②146 ページ 5 行目～

車の中で“変なおいがする”という息子の態度がセホは気に入らない。昨年出かけた林で路肩に車を止めると子どもたちはすぐに林の中に走り出し、やがてジヒョンと義母も後に続く。

③148 ページ 5 行目～

トランクに入っていたサンプル用のウィスキーを一気に飲んだセホは亡父の遺品を見つけ気が重くなる。必要な物を持ち林に入ると、樹齢が自分の年と同じでありながら見事な巨木に育っている落羽松の果てしない隊列に目を見張る。

④150 ページ 13 行目～

林の中の“カフェ・サイプレス”に着くと子どもたちはハンモックに寝転んでいた。セホは義母に、亡くなった父が元気かと聞かれて戸惑う。

⑤152 ページ 16 行目～

カフェでのおやつ時間。迎えに行ったセホに子どもたちは祖母の様子がおかしいと話す。彼はやんわりと否定する。

⑥154 ページ 10 行目～

歌を恥ずかしそうに披露する娘の様子に大人たちは和む。願い事があるという娘は四つ葉のクローバーを探したが、祖母が子どもたちと一緒に見つけに行くことにする。

⑦157 ページ 16 行目～

カフェに残ったセホは義母が心配だと妻に話すが一蹴される。セホの亡父のことなどを話した後、セホはコーヒーのおかわりにウィスキーを入れて飲む。時間は午後3時すぎ。

⑧160 ページ 19 行目～

四つ葉のクローバーが見つからず泣く娘が、兄と祖母と一緒に戻ってくる。セホは宝探しをしようと提案し、子どもたちは喜んで林の中に隠されたお札を探しに行く。

⑨163 ページ 8 行目～

子どもたちを待つ間、義母は明るい表情でジヒョンの子どもの頃の話をする。

3回目の宝探しで義母が 100 ドル紙幣を隠すが、どこに隠したのかわからなくなる。途方に暮れる義母の様子にジヒョンは取り乱し、セホは義母を慰める。

◇感想など

- ・晴れた休日、郊外に出かけた家族の数時間の出来事を描いた小説。
- ・駐車料金精算所での様子など、随所にユーモアが感じられる。
- ・可愛らしい子どもたちや愛情あふれる両親や祖母など絵に描いたような幸せの裏で、それぞれが心配ごとや葛藤を抱えているのが垣間見える、奥行きや深みのようなものを感じた。
- ・楽しいはずの宝探しで宝は見つからず義母の病気が決定的になるというアイロニー。
- ・カフェの明るいバルコニーから暗い林の中へ。明るい昼間から夕方への日の傾き。
カフェの名前（サイプレス：糸杉。喪や哀悼の象徴として墓地に植えられる）
→ 義母の病気やそれに伴うジヒョンやセホにふりかかる不安などを暗示
- ・メタセコイアと落羽松の意味
→ どこまでも続く落羽松の林は高齢化社会と増え続ける認知症を暗示？

<読書会での皆さんの感想など>

- ・亡父が認知症だったセホとジヒョンが同じ立場になったこと、自分の父にしてあげられなかった分これから義母に尽くしていこうというセホの思いなど、話の終わり方に前向きな要素が見られる
- ・認知症を認めることは大きなハードルであると感じた
- ・娘が四つ葉のクローバーに託したい願いの内容が最後まで明かされていないことから、思いはうまく伝えられないものだったと思った
- ・普通の家族の日常生活の中での人の心の動きがよく表されている作品
- ・駐車場の出口で怒る妻、宝探しにお金を使うこと、カフェで持参した果物を食べることなど、とても韓国っぽい
- ・光景が目浮かぶような普遍的な様子の中にも韓国的なものが自然に入っていて面白い